

自己評価及び外部評価結果

地域密着型サービスの自己評価及び外部評価項目

タイトル	項目数	
	自己	外部
I. 理念に基づく運営	14	7
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	8	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	13	5
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	20	7
V. サービスの成果に関する項目	13	—
合計	68	20

○項目番号について

自己評価は55項目、外部評価は20項目です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する通し番号です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価に該当する通し番号です。

○記入方法

[事業所が特に力をいれている点・アピールしたい点]

事業所が記入します。
 日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

[外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点]

評価機関(調査員)が記入します。
 訪問調査を通して気づいた、事業所の優れている点・工夫している点等を記入します。

[実践状況]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。

[次のステップに向けて期待したい内容]

今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みが期待される内容について記入します。

[事業所記入]

事業所名	グループホームサポージュ白山台
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	青森県八戸市
記入者職名・氏名	管理者 住澤 拓美
記入日	令和5年 9月 5日

[調査員記入]

訪問調査日	令和5年 10月 16日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 12時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームサポージュ白山台 ————— (青森県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>高橋 恵美子</u>
	氏名 <u>辻浦 未来</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>住澤 拓美</u> ヒアリングを行った職員数 (1)人

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300490		
法人名	医療法人メディカルフロンティア		
事業所名	グループホームサポージュ白山台		
所在地	〒039-1113 八戸市西白山台5-3-12		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、令和2年7月に開設いたしました。施設周辺には、小学校や遊歩道があり、登下校の子供達の元気な様子をみたり、ゆっくりと散歩できる環境にあります。
今年度からコロナウイルスが5類へ移行したことに伴い、運営推進会議が参集しての開催となり、地域の方との交流が図れ、今後は、感染状況によりですが、少しずつ地域の行事や外出の機会を増やしていきたいと思えます。入居者様、一人一人の個性を尊重し、役割を持ちながら日々の生活を過ごせるように支援しています。また、館内でも季節感を感じて頂く為、季節にあった壁画作りを行ったり、毎月、行事を企画し、入居者様が笑顔で楽しく過ごせるよう支援しています。今後も、入居者様に寄り添い、本人本位のケアを引き続き目指していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置しており、周辺には緑もあり、遊歩道を散歩したり穏やかに過ごせる環境である。近隣に小学校があり通学路である為、日常的に小学生の姿を見たり、挨拶を交わすことが出来る環境にある。協力医療機関との連携があり、重度化に対応できる体制が整っている。協力医の往診や訪問看護を利用することで、医療面では利用者の健康管理や重度化・終末期の質の高い介護・ケアが提供されている。職員は、「誠実に、謙虚に」の理念、職員の行動指針に基づき、日々利用者に関わる際、出来ることを考え、出来るためにはどうするか、理念を具体化していくことに取り組んでいる。利用者に関わり、本人本位のケアを支援している。コロナ禍の中で、自衛を強いられているケア・サービスは、感染状況を見ながら実施していきたいと考えている。また、事業所が実践を通して積み上げてきた認知症の方の理解や支援の方法を、地域の方に向けて発信していくことを計画しているなど、地域の一員として地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実に、謙虚に」の法人理念をスタッフルームに掲げ、常に意識しながら、管理者、職員は、共有と実践に努めている。	理念を、常に確認できるよう掲示している。職員全体の意識付け、振り返りがされている。理念に基づいた職員の行動指針があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた年間の目標を掲げ、日々の関わりやケアの統一を図ると共に、出来ることを考え工夫し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動への参加は、新型コロナの影響により自粛している。小学校の通学時や近隣に散歩へ出かけた際は、挨拶を交わすなど交流をしている。地域の防犯カメラの設置場所として協力させて頂いている。	町内会活動は、コロナの影響により自粛はしているが、地域の防犯カメラの設置場所として協力するほか、散歩に出掛けた際は小学生や近隣住民の方と挨拶を交わし交流している。町内会会長や民生委員が、運営推進会議のメンバーであり、地域とのつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より運営推進会議は、参集しての開催となり、認知症の方々の日々の暮らしや活動を紹介している。その際は、入居者様のプライバシーには、十分に配慮して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より参集しての開催となり、ご意見やご助言を頂きながら、意見交換を行い、サービス向上に努めている。	前年度まで、コロナ禍により書面でのやり取りだったが、今年度からは2ヶ月に一回参集し開催している。事業所の取り組み、活動報告、事故報告等を行い、アドバイスをもらったり意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保健課、地域包括支援センターなどより、助言や情報を得ながら協力関係の構築に努めている。	市役所の担当者は、運営推進会議に参加しており、不明な点は電話し相談しており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針に従い、勉強会を実施し「身体拘束ゼロ」のケアに取り組んでいる。委員会を設置し、定期的に意見交換を実施している。	身体拘束の指針に従い、年間計画を立て勉強会を行っている。委員会、研修、会議を定期的に行い、意見交換しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会を行い、学びを深め、あらゆる場面において虐待がないように理解と防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見人制度については、現在、対象の方はありませんが、内部研修にて勉強会を行い、理解、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、改訂時には、契約書等の読み合わせを行いながら、内容の説明を行い、納得されてから同意の署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、ご意見の記入用紙を設置している。利用者様らのご意見は、普段の会話から頂くことが多く、職場会議で検討させて頂いている。	玄関に、「ご意見の記入用紙」を設置しているが、これまで意見の投函はない。家族からの意見や要望は、面会時や電話連絡の際に聞き取りし、申し送りノートにて職員間で共有している。利用者からの意見は、普段の会話から聞き取りし、職員会議にて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議以外にも、随時、意見や提案ができる環境にあり、可能な限り反映している。年2回、個人面談を行い、意見を出して頂いている。	朝の申し送りや月1回の職員会議、年2回の個人面談にて、職員の意見を聞く機会を設けている。面談では、私的な事も含め意見が言いやすい環境であり、意見の反映がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成前に希望を聞き、希望に添えるよう配慮している。代表者は、福利厚生に努めており、昼食無料やドリンクバー設置など職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加を推進し、希望の研修や参加できるよう勤務調整を行っている。内部研修では、研修、勉強会の年間計画を立て、担当者が研修資料を作成を行い、個人のスキルアップへも繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響にて、外部研修の参加も少なく、同業者と顔を合わせる機会もなかった。同法人内での交流の機会があった際は、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の段階から、ご家族様、ケアマネジャーから詳細に利用者様の状況を聞くように努めている。ご本人の要望や困りごとに耳を傾け、不安や混乱なく入居に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていることや要望の把握を意識しながら対応している。入居後も、細目に連絡をとり、生活の様子を報告し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の思いや本人の状態を把握し、困りごとに対するアプローチを複数提案し、施設利用についてのご理解を深めて頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活意欲を失わない様に、個々の残存機能を見極め、洗濯物を干したり、洗濯置き、玄関外の花の水やり、行事等で使用する装飾作成を協力得ながら、職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響にて玄関先にて短時間だが、面会を行っている。ご家族様へは、来所時や電話などで生活の様子を報告するよう努めている。広報を活用し、ご家族様へ行事の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と電話で話す機会を設けるなどし、できるだけ関係が途切れないように支援を行うように努めている。	面会は玄関先で、家族や友達、近所の方々と行っている。看取りの方に関しては、状況に応じて部屋で行っている。電話で話す機会を自由に設けており、難しい方は支援し対応するなど、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、食席の配置など環境面の配慮や職員が共に会話に参加するなど関係性が良好になるよう精神面の支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了していても、関係性の繋がりは意識している。退所後も、他ご家族様のごことで相談をうけ、申し込みをして頂いたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から、希望や意向を把握するように努め、変化を見逃さない様に、日々の気付きを共有し、カンファレンス会議等でご本人の立場に立ったケアを検討している。	月に一度のカンファレンスにて、プランの見直し・アセスメントを行っている。また、状態の変化に応じ、その都度見直しを行っている。日常会話や行動から、希望や意向の把握に努めている。表現が困難な場合は、家族からの情報等から本人本位に検討し、ケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様や前のサービス担当者より、情報収集を行い、生活歴や環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりの中で、利用者様の言動から心身の状態や個々が持つ有する能力については、気づいたことを記録し職員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からの意向・要望を伺い、アセスメント後にカンファレンス会議を開催し、職員間で話し合いながら、意見交換してケアプランに反映させている。訪問看護とのカンファレンスも別日に開催している。	本人、家族からの意向・要望を基に、月1回カンファレンス会議にて、職員間の意見交換・情報の共有を行い、ケアプランに反映させている。また、月2回の訪問看護とのカンファレンスも別日に設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録に記載している。気づいたこと等は、日誌にも記入し口頭での申し送りもやっている。記載された記録を元に、毎月、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や協力医療機関との連携により、看取りケアを行っている。ご本人様、ご家族様の要望に沿い、外部サービス(マッサージ)などの外部サービスを取り入れたり、通院時の送迎、退院時の送迎介助など、必要に応じて柔軟に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響にて地域との交流は、行うことができていないが、徐々に制限も少なくなり、ご家族様との面会が再開できている。運営推進会議にて地域の情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医医療機関の説明とご本人様、ご家族様に決めて頂いている。協力医には、月1～2回程度の定期往診と月2回の訪問看護の健康チェックにて医療機関との連携を図りながら対応している。	入居時に、協力医療機関の説明を行い、本人・家族の希望を伺い決めて頂いている。事業所の協力医医療機関の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、通院支援を行い、その後家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の来所時に、利用者様の状況報告を行い、相談、助言を頂いている。24時間対応しており、随時、連絡し相談している。又、看取りの協力等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院先と連携を密にし、本人の情報共有に努めている。また、当事業所で対応できる事などを伝え、出来る限りの協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や、終末期についての意向確認を行っている。体調に変化あった時は、ご家族様へ説明・意向の再確認を行い、同意を得た上でケアを行っている。ご家族様へのケアについての要望を伺い相談し、医療職との連携を図り支援している。	入居時に、重度化における指針を基に事前に意向の確認を行っている。状態に応じ、その都度意向確認をしている。看取りでは、事業所で出来ることを家族・医療機関と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、対応マニュアルに沿って対応している。施設内には、AEDが設置されている。AEDの使い方、応急処置について定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備している。委員会職員が中心となり、避難訓練を実施し、職員の周知に努めている。非常食等を備蓄している。	防災マニュアルを整備し、年2回の訓練、保守点検、振り返りを行っている。法人内での協力体制があり、災害時は連携をとれるようにしている。コロナ禍のため、消防署立ち合いの訓練は出来ないが、今後地域住民の協力も含めた実施を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を心掛けると共に、勉強会にて理解を深め、現場で実践に反映するよう努めている。	一人ひとりの人格の尊重、プライバシー保護の取り組みに関して、職員研修にて勉強会を行い理解を深めている。また、外部研修にも参加している。現場では、声かけや対応に配慮しながら実践に反映させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2拓での質問をする等、自己決定できる機会を増やしている。コミュニケーションを多くとることで、本人様の言動から察知できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、意向に応じて柔軟に対応し支援している。入浴拒否の意向がみられた際は、時間帯や曜日や人を変える等の工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に連絡し理容にて散髪を行っている。ご家族様に好みの衣類を準備して頂いている。衣替えの時期には、筆筒の整理を一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様からの希望があった際は、代替品を使用や調味料を変更する等している。テーブル拭きは、職員と共に頂いている。	法人栄養士が献立を作成しているが、希望があった際は、本人の嗜好に合わせ、代替品で対応している。また、その方に合わせた食事形態で提供している。コロナ禍である為、食事準備は職員で行っているが、テーブル拭きは職員と共に頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人内の栄養士が作成している。個別に食事形態を工夫している。食事摂取量の把握に努め、必要時、補食や栄養剤の提供し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。個々に合った物品を使用し、必要な方には、介助を行い支援している。必要に応じて、歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を参考しながら、ご本人の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声かけや対応を心掛け、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄記録表を基に、その方の排泄パターンを把握し、声かけ・トイレ誘導を行っている。1人で移動が困難な方は、職員2人で対応し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を把握し、水分・乳製品の提供、腹部マッサージや運動を促し、自然排便できるよう心掛けている。また、状況に応じて下剤の調整など個別に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様に合わせたタイミングで入浴が出来る様に声かけし対応している。同性介助や時間、湯音など、個々に合わせ内容に変更しながら入浴できるように環境を整え支援している。	基本の入浴日は週2回であるが、本人のタイミングに合わせ、時間・曜日をずらし対応している。同性介助・入浴時間・お湯の温度など、個々に応じた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた室温、採光で環境を整え、対応している。寝具は、ご本人様の希望に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に必ず薬情報を確認し照合している。また、薬の作用、副作用も合わせ確認している。内服変更時は、申し送りにて職員に周知している。内服薬で不明な点は、薬剤師へ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個々の生活歴や能力を活かし、興味がありそうな活動を無理なく行って頂いている。毎月、行事を企画し、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響にて外出頻度は少ないが、利用者様の希望を伺い、お花見等のドライブに出かけている。敷地内の散歩も状況を見て行っている。	楽しく過ごして頂けるよう、花見・紅葉ドライブなど毎月計画し、なるべく全員が行けるよう出かけている。個々の状態に合わせ、遊歩道での花見・散歩も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて、その方の能力に応じて、金銭の所持や管理を支援している。施設内の自動販売機を利用されたい方には、職員が支援対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望時、電話はいつでも使用できるよう支援している。手紙や年賀状が届いた際は、ご本人へお渡ししている。手紙のやり取りは、自由に行って頂いている。投函は、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホールや廊下等に装飾を行ったり、行事の写真等を飾ったりしている。室温等を適切に管理し支援している。	季節に応じた装飾を、皆が集う場所や廊下で行っている。装飾活動は、利用者と一緒にを行い、季節を味わえるようにしている。室温・湿度の調整、消毒・換気をする他、次亜塩素水の装置を設置し、感染対策に努めている。住宅街で、交通量は多いが騒音は気にならず穏やかに過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置し、外を眺めながら会話を楽しめるよう支援している。利用者様、一人一人が気持ちよく過ごす事が出来る様に、状況に応じて工夫しながら支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、馴染みの物を持ち込んで頂けるようにご家族様へ説明している。家族写真や昔、頂いた賞状などし居室へ掲示されている方もおられる。ご本人様が安心して過ごせるよう配置なども工夫し支援している。	入居時に、馴染みの物を持参出来ることを家族に説明している。居室内の家具の配置は、本人や家族の希望を取り入れ行い、写真や賞状の掲示をしたりと、本人が安心して過ごして頂けるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に配慮して、居室やトイレの目印等の表示を工夫し対応している。ホールに時計やカレンダーを設置し、時間の認識ができる工夫と声かけをしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	認知症の方の理解や支援の方法を地域の方に向けて発信していきたい。	認知症の方の理解や支援方法を、地域の方に向けて発信できるよう計画を立て、地域の一員として地域貢献に努める。	認知症の方の理解、支援方法について、業務会議の中でスタッフの意見を踏まえながら、運営推進会議にて地域の方へ発信していく。	12か月
2					か月
3					か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。